

# 東京鷹桜同窓会報



**10月24日の東京鷹桜同窓会、総会・懇親会中止！**  
**10月31日の長井での百周年記念懇親会・記念講演会は中止！**  
**式典は関係者のみで縮小して開催 [東京からの参加は自粛]！(8月5日、実行委決定)**

## ご挨拶

会長 工藤 美知尋 (S41年卒)



新型コロナ禍の中、皆様におかれましては如何お過ごしのことでしょうか？昨年12月頃中国武漢で発生した新型コロナウイルスは瞬く間に全世界に伝染し、ついに日本でも今年2月以降猛威を振るっています。今なお

終息の兆しはありません。結局ワクチンが開発されない限り、今回の新型コロナウイルスに打ち勝つことが出来ないことが明らかになりました。これまでのわれわれの平穏な日常生活をかき乱し、政治・経済・社会の全ての分野に互って、大きな負の影響を与え続けていることは、日々実体験し

ているところです。

さて東京鷹桜同窓会では、当初例年通り10月24日に、創立40周年のお祝いとともに総会・懇親会を計画しておりましたが、新型コロナウイルスの猛威がまだまだやまない状況に鑑み、今年の総会を中止し、1年延長して来年、今年と同じ日比谷のプレスセンターにあるレストラン・アラスカにおいて、総会・懇親会を開催することを、7月7日メールと電話による役員会で決定いたしました。今年は役員改選の年でしたが、これも来年に持ち越しとなりました。現体制のまま、来年の総会までやってまいりますので、何卒ご理解とご協力の程、お願い申し上げます。

また長井市における母校百周年記念事業である式典・記念講演会・懇親会は当初6月27日に予定しておりましたが、コロナ禍により10月31日に延期になりましたが、現在はこの開催自体が難しくなっております。規模を縮小し分散して実施するか、それとも全面的に中止とするか、あるいは

## 目次

- P2 山形県立長井高等学校創立100周年【記念碑建立】  
 ・母校に100周年記念碑贈る 八木 倫明  
 P3 ・謝辞 芳賀 道也  
 P4 東京鷹桜同窓会を振り返って  
 ・私がこれまでやってきたこと 鱈淵 康彦  
 ・佐伯亮典君 (S31年卒)の遺稿について 黒澤 俊雄  
 P5 ・同窓会との出会い、感謝の20年 末吉 暁子  
 P6 ・東京鷹桜同窓会40周年記念に寄せて 安部 浩

- P7 ・東京鷹桜同窓会創立四十周年に際しての所感 守谷 次郎  
 ・これからの「ふるさと長井」を考える 村上 義則  
 P8 ・身辺雑記 桑島 寛之  
 ・百周年記念の碑文に、父の詩が刻まれる 芳賀 道也  
 P9 計報・追悼文  
 ・水野多門先生を偲んで 安部 浩  
 ・高橋寛先生を偲ぶ 丸山 安子  
 P10 2019年度決算報告、2020年度予算、活動報告

は来年に延期するか、ここ数日間の内に決めなければならぬ状況になっています。

今年7月4日、長井市内でコロナの感染者が発生したことが判明し、母校でも7月6日（月）臨時休校にして全校内を消毒するという緊急事態となりました。また7月8日には山形県内で初の死亡者も出ました。したがって10月31日の記念式典につきましては、本部の同窓会会報をもって皆様にお知らせすることになると思います。

この会報は8月20日までは皆様のお手元に届くことしておりますので、お知らせが錯綜することもあり得ますことを、前もってお断り申し上げます。

われわれの東京鷹桜同窓会は、来年こそ大々的に創立40周年の祝賀の総会と懇親会を開催した

と思っています。今年に入りましてから、コロナ騒ぎのため、役員会と春秋の学年幹事会も中止せざるを得ませんでした。

今回の会報では40周年記念号にちなみまして、昭和29年3月卒業の鰐淵康彦氏より、51年卒の芳賀道也君迄、約8名の方よりエッセーを書いて頂き掲載しておりますので、皆様の想いと重ね合わせてお読みいただけたら幸いです。

今や人生百年時代です。六十、七十歳は、隠居する齢とは言い難く、まだまだ働き盛りなのかも知れません。

皆様におかれましては、何卒お体ご自愛くださいませ。日々お健やかに過ごしてくださいませ。ことをご祈念申し上げ、巻頭の御挨拶に代えさせていただきます。

## 山形県立長井高等学校創立100周年【記念碑建立】 2020年6月29日

### 母校に100周年記念碑贈る 八木 倫明 (S51年卒)

母校の創立100周年。東京の同窓生から母校に記念碑を贈ろうと、2016年の暮に提案された。費用は120万円（税別）。3年間で6回のコンサートを行ない（東京3回、長井市3回）、その収益金を積み立てて資金をつくる、という壮大な計画。提案者は、東京同窓会の当時副会長の工藤美知尋さん。「やぎりんコンサートでお金を集めよう」と。

2017年、18年、19年の6月に東京オペラシティ近江楽堂（120席×2回）。同じ3年間長井市では市民文化会館やタスパークホテルで計3回。合計

6回（9公演）のコンサートを開催。

記念碑には、長井高校の卒業生でもあり教員生活最後の5年間に母校の校長をつとめた芳賀秀次郎先生の高校生に向けた詩『若い友へ』の一節が刻まれたことも意義深い。芳賀先生の詩をご提案されたのは、長井高校1年のときに、校長であった芳賀先生の薫陶を受けた後藤浩さん。後藤さんは教員となり、教員生活の最後の19年を長井高校で教員をつとめ、芳賀秀次郎先生の詩を引用して教え子たちに伝えていた。教師から生徒へ、先輩から後輩へと、学びの哲学が受け継がれてゆくという、地味だけれど輝かしい歴史がこの石碑に刻まれている。



### 碑文

『万物我に備わる』

『人類の遠い歴史のなかで  
いのちを守るために  
幸せを作り出すために  
愛を实らせるために  
生み出され  
語り伝えられてきた数々の智恵  
それを学びとろう

芳賀秀次郎』

※第13代校長（昭和45年4月～50年3月）昭和8年卒  
白鷹町出身





僕らが毎日通った昇降口の傍らにその碑はあった。そこには亡き父の『若い友へ』の一説が刻まれていた。当時10代だった僕は父に反発していた。還暦を過ぎ、改めて読むと「なぜ、あの頃もっと学ばなかったのか」という

思いが募る。この碑は、東京同窓会有志の皆さんと同級生のケーナ奏者「やぎりん」の仲間達が東京・山形で何度もコンサートを開きその収益金で贈られた。多くの皆さんの思いがこもった物である事が特別にうれしい。



長井高に建立された創立100周年の記念碑  
＝長井市

2020年6月29日付『山形新聞』五十嵐 聡

### 長井高に創立100周年記念碑 東京鷹桜同窓会主体に建立

【長井】長井市の長井高に創立100周年の記念碑が建立され28日、同校で除幕式が行われた。

東京鷹桜同窓会（工藤美知尋会長）が主体となり建立した。費用は約130万円。同校OBのケーナ奏者で作詞家の八木倫明さんが卒業生の歌手らと2017～19年に東京や長井で開いたコンサート計6回の収益金を充てた。

碑は幅約2・1メートル、高さ約1・2メートルで重さ約3ト。卒業生が経営する市内の石材店が施工した。群馬県産の三波石にインド産の黒御影石をはめ込んだ。黒御影石には、校訓「万物我に備はる」と、同校OBで校長を務めた故芳賀秀次郎さんの詩の一節を記した。

除幕式には同会メンバーや黒沼收校長が出席。工藤会長が経緯を説明し「後輩にわれわれの熱い思いを伝えたい」と語った。

（五十嵐 聡）

【記念碑建立の決算】

総収入 …………… 1,426,921 円  
 総支出 …………… 1,426,921 円  
 石 碑 …………… 1,320,000 円  
 除幕式 …………… 83,700 円  
 管理費 …………… 23,221 円

【監査】 守谷次郎 [印] 斎藤四郎 [印]



2019年8月31日 最終コンサート(長井タスホテル)

# 東京鷹桜同窓会を振り返って

## 私がこれまでやってきたこと

鰐淵 康彦 (S29年卒)



私は、昭和29年に長井高校を卒業後東大受験を目指して上京しましたが、見事に失敗してしまいました。当時は怖いもの知らずで、お茶の水の駿河台予備校も受験しましたが、全く歯が立たず、予備校にすら入れなかったことは、私にとってはとても大きなショックでした。

しかし市ヶ谷の城北予備校には何とか滑り込むことが出来ました。この予備校には、数人いわゆる「名物教師」がいて、英語、数学などを徹底的に叩き込まれ、この時初めて目的をもって勉強することの大切さを実感させられました。

当時は理科Ⅲ類はまだなく、医学部に入るには、教養部の時の成績が悪いと、一旦退学させられるという、厳しい制度でした。退学すると定期券も買えず、映画の学割もなしという状況で、とても辛い思いをしました。結局、医学部に入るために更に2年を要し、やっとの思いで医学部に進むことが出来ました。

医学部では軟式テニス部と全学の柔道部に所属し、卒業後は当時花形だった、心臓血管外科(木本外科)入局し、何でも挑戦してみようと、体外循環、補助循環、高圧酸素療法など、何でも「やれ」と言われたことは絶対に断らないという方針で頑張りました。

立川米国空軍病院で2年間(通常は1年)インターンとして働き、その後再び医局に戻り、その後木本教授が院長として赴任された三井記念病院に就職し、約30年間、心臓血管外科医として働きました。この間2000例以上の心臓血管手術を手掛けてきたと思います。

この病院は約400床の外科中心の地域病院で、全国から手術治療の必要な患者さんが集まってくる病院でした。この病院でも、手術救急部長、ICU部長、MEサービス部長、循環器外科部長、外科部長、おまけに乳腺外科部長として、乳がん

の手術までやらされ、朝から晩まで一日中働いていました。この病院では、同僚たちと研修医制度を立ち上げ、全国から研修医を募集して、外科医を育てました。

またハーバード大学の臨床研究員として、ボストンのMQH総合病院で約2年間、アメリカの医療をつぶさに見る機会にも恵まれました。定年後は徳洲会の徳田虎雄君の招請を受け、湘南鎌倉総合病院の院長を5年間勤め上げ、現在は東大医局の先輩が開設した藤沢御所見病院という150床ほどの小さな病院で、一人で33名の患者さんの看取り医として働いております。私たちが育てた外科医は、約200いますが、その中の15人が大学の外科教授として活躍しております。

この人たちが若い外科医たちを育ててくれるよう、今年84歳になった私のささやかな願いです。

## 佐伯亮典君(S31年卒)の遺稿について

--- 科学を診断する ---

黒澤 俊雄 (S31年卒)

この度、旧長井小学校第一校舎を訪ねた。広くて緩やかな階段。山型の独特な天井。尻を逆さにして雑巾がけをした思い出の廊下は広くて長い。当時、国民学校と呼んだ懐かしい校舎だ。早速、1年6組の教室に入ったら、忽ち75年前に引き戻されて、当時の懐かしい教室風景が蘇ってきた。

窓際が一番前の席は、ロッケちゃ(佐伯亮典君)。母親同士が荒砥尋常高等小学校の同級生だった誼みも手伝って直ぐ仲良くなった。以来、高校を卒業するまで、12年間に、どういう縁か7回も同じ組になった。彼はわが母校を出てから東北大学に進み医者となった。人の病を癒す事を生業とする人生であったが、若くして天国に召されてしまった。45歳と言う惜しみても余りある生涯であったが、多くの思い出を残していつてくれた。

よく彼と、昇ちゃ(沓澤昇君)と一緒に山に登った事なども忘れえぬ思い出である。蔵王、吾妻、





磬梯等々。磬梯山登山の時に、野口英世記念館に立ち寄った事は、今にして思うと懐かしい。

彼は、医学以外にも芸術や哲学そして宗教にも関心を寄せていた。こうした分野への関心を持ち続けたのは、医学者ながら、科学に対しても率直に疑問を呈し、その限界を心得た謙虚さを忘れない男だったからである。ここに彼の人柄を偲ばせる遺稿とも言える一文があるので、紹介しよう。

「始めに言葉ありき」聖書ヨハネ福音書の冒頭を飾る言葉である。人間と言葉の関りを最も鋭く表している。神代の人間生誕の以前より切っても切れないものは言葉である。言葉がなければ神々も人間も思考すら出来ない。これから話す科学も言葉によって成立っている。

「地上にある水蒸気が上方に昇って冷やされ、水滴になって落ちてくる。これを、雨と言う。」これが、科学である。「神は、雨を降らせ給う。」これは、同じ事の宗教的表現である。しかし、不思議な事に少しも矛盾していないのである。

ある患者さんが、ある素晴らしい病院に入院し、「医学は実に進んだものだ。心臓の中も脳の中も手に取る様に見える。しかし、医学は人間を救う事が出来るだろうか。との疑問を呈し、医学の実態を見つめておられる記事のある新聞の投稿欄の中に見た。

果して、科学とは何であろうか。考えてみよう。「そんな事は科学でないから駄目だ。」とか、「科学で証明されていないから……」と物事を判断する場合や、物の価値判断する場合、あたかも科学万能の風潮である。世を上げて科学が、神様の位置を取ろうとしている。しかし、科学は大切な物事の判断の決め手になりえるのだろうか。

「バラはバラ科に属し、花卉は○個、色はxx、夏から秋にかけて花を開き、△△に花を散らす。」これが植物学（科学）である。自然にあるがままを、そのまま、文字に記載する。それが科学である。記載されなくとも、バラには何の関りもなく、依然としてバラの営みがある。

「NaとClとの化学反応によって、塩っぱいNaClになる。」これが科学である。どうしてそうなのだろうか。これは、人間には分からない。科学とは、自然におこる現象をそのまま、遅まきながら記載している事にすぎないのである。

さらに科学の中で最も厳密なのは数学。これは、「感覚的なものと、約束事の上に成立っている。数学も根本に遡ると公理、定理と言った約束事の上に成立っているのだ。しかし、これらの基準となっている定理、公理も、その約束事が目

下支障を生じないという範囲内でしか成り立っていない代物であって、非ユークリッド幾何学、アインシュタインの法則など、ブラックホールに至るまで説明し難い事が次々と出てくるのである。それを説明するには、また、別の約束事も作らねばなるまい。

大きい方に目を向けて見る。宇宙（空間）は限りあるのか、無いのか。その限りのその向こうは何なのか。無いとすれば、無いとはどう言う事なのか。また、小さい方（ミクロの世界）に、目を転ずれば、ここに鉄の塊がある。科学の力で、これを切って切ってどこまでも切ると、原子（atom）に辿り着く。ギリシャ語で切るを意味する tomos に否定詞 a を付けた atomos がその語源であって、これ以上分割出来ないと言う意味であったはずであるが、その原子は、陽子と中性子と電子から出来ている事が分かった。さらに、中間子が湯川先生によって予言されるなど、新しい粒子が予言されている。

時間とは本当にあるのか。時間と名付けているものは、一体どう言う物なのか。実在するものなのか。疑問は尽きない。

科学は、長い年月をかけて、改良に改良を重ねて作り上げた貴重な所産である。しかし、所詮、人間の手によるもの。未完成品だ。これからも治療（改良）が続けられるであろう。

科学は大変貴重な道具である。上手に使うのは、確かに賢い生き方だ。しかし、疑ってみるのも又賢いのではないか。

## 同窓会との出会い、感謝の20年

末吉 暁子（S36年卒）



旧制中学校第一回卒業の長沼孝三氏を中心に、同窓会の組織を確立しようと熱心な話し合いの末、昭和26年に「双鷹会」が発足、70年前には現在の同窓会の基盤が出来上がっていたことになりました。

その後昭和53年、女学校の校舎が取り壊され、卒業生がなくなることを危惧された先輩方が、女学校の「小桜会」と「双鷹会」が合併し「東京鷹桜同窓会」としてここから新たなスタートです。

ここまで大変なご苦労があったと想像ができません。

すし、ご尽力いただいた諸先輩方のお陰で今日があると思っています。

昭和55年秋、一年以上の準備を重ねられ『長井高等学校創立60周年記念』の行事でした。私は会場が池袋ということもあり出席しました。会場入り口では各学年の世話人さんらしき紳士・淑女が出迎えて下さいました。時々聞えてくる山形なまりの会話が心地よく感じました。

事務局まとめ役の高橋忠三氏が同じ板橋区在住ということで自己紹介をしたのが運の付き「近くに住んでいるんだからテツだってケロ…」と言われたのがきっかけでお手伝いすることになりました。

翌年の総会で初代の長沼孝三会長から高橋正二会長に代わり、同窓会組織も充実し、確立していききました。

思い出されるのは会場探しと名簿の整理、会員への発送は手書きです。総会の度に事務局長の事務所で数日間も作業です。そのうち宛名のシールを発送できましたが、封筒へ貼るのは手作業です。

幹事さんの発案で二学年ごとに持ち回りで担当することを決め、総会の準備など担当しました。作業する場として、会員の事務所やご自宅を開放して下さいる方にも助けられました。事務費軽減の為でもあります。総会参加人数にも反映し大成功。

現在鷹桜同窓会本部の総会も二学年で担当されていますが、昭和58年に学校長になられた水野多門先生が、毎年東京の総会に招待されるなかで東京支部の活動に感銘を受け参考にされたと同ったことがあります。また各地区の支部創設の気運が高まり、模範となったようです。

平成7年に高橋俊龍氏（元東京都副知事）が会長を受け継ぐまでお手伝いさせていただきました。お陰様で沢山の出会いがあり、刺激もあり、私自身の学習の場でもある20年でした。俊英な諸先輩方の励ましとご指導のお陰様と感謝です。

## 東京鷹桜同窓会40周年記念に寄せて

安部 浩（長南 S36年卒）



母校の創立100周年、そして母校の歴史と共に歩んできた東京鷹桜同窓会40周年を心からお祝い申し上げます。

平成20年の会長在任中にホームページ開設、同窓会の活動状況や母校の情報に加えて同窓会報

を掲載し自由に閲覧できるようになりました。故郷を想い、母校のためを想い、何か母校のためになろうと考え県立長井中学校同窓会東京支部をつくった記録を、長老の聞き書きで綴られた東京鷹桜同窓会のあゆみが、会報3号「同窓会東京支部の芽生え」、4号「支部創立総会開く」、5号「昭和31年から同窓会活動軌道にのる」に紹介されている。昭和25年秋に東京支部の設立準備や組織づくりの話合いが始まり、創立総会に向け活動開始、翌年26年初夏に創立総会開催、出席者14～16名、支部長に長沼孝三先生（大14第一回卒）に決定、そして同窓会スタートして3年目に組織づくりにクラス連絡委員会を新設、規約や名簿の作成、翌32年から毎年定期的に総会開催できるようになり、創立から昭和43年までに開いた総会一覧表を付して紹介されている。

旧制長中時代の同窓会生立ちを聞き書きで調べられた記録は大変貴重で、設立当時の状況を拝見すると、現在の東京鷹桜同窓会が先輩たちの弛まない努力と熱心な活動の上に成り立っていることが理解できます。

戦前戦後の大変な時代を挟んで先輩たちの並々ならぬ努力で創立された長中同窓会東京支部、それから29年後の昭和55年に「東京鷹桜同窓会」と改称して40周年ですが、長中時代から数えると来年が70年、古稀になります。母校100年の歴史と共に歩み、発展してきた同窓会、同窓会は心のふるさと・心の糧であると先輩たちが記しているように、同窓会の存在意義は偉大で、不変で、永遠です。本会の充実と発展を心から祈念申し上げます。

最後に、母校の発展と会員の皆様のご健勝をお祈り致します。

### 苦悩する昭和天皇

—太平洋戦争の実相と昭和天皇実録—

3月15日発売 工藤 美知尋（S41年卒）  
本体 2,300円 芙蓉書房出版

### 戦犯 ある軍医の悲劇

—冤罪で刑場に散った桑島怨一（S9年卒）の真実—

8月15日発売 工藤 美知尋（S41年卒）  
本体 792円 光人社 NF文庫

全国の書店、ネット書店で取り扱い



## 東京鷹桜同窓会創立四十周年に際しての所感

守谷 次郎 (S38年卒)



今年、令和二年（西暦二〇二〇年）は、母校創立百周年を迎え、そして我々が東京鷹桜同窓会（以後、本会）の創立四十周年になります。まずは先輩諸氏の設立に向けた熱意と努力、そしてこれまでの活動を維持されて

来た役員各位に感謝申し上げますと共に敬意を表します。

本会は、母校創立六十周年の祝賀会に併せて昭和五十五年十月十八日に東武デパート・バンケットホールにて約三百名の会員を集めて設立総会が行われました。それ以来、ほぼ毎年総会・懇親会を開催されてきましたが、平成十三年の第二十一回総会等を境に百名以上の会員参加は、略無くなりました。考えられる原因については私見として、会報（33号～36号）に寄稿してきました。「同窓会は故郷の散歩道」として年代は違っても、母校は早苗ヶ原にあり、校舎の佇まいに変わることはあっても、その土地の醸し出す雰囲気から同窓生としての気分を共有できるのではあるまいか。年代間に思いの差はあっても埋めるべき土台があるのですから本会に近寄ってみて欲しいものです。

令和二年は我々にとって母校創立百周年という世紀のお祝いの年であり東京五輪等の開催もある記念すべき年であるはずでしたが、前年末に中国の武漢が発生源とされる「新型コロナウイルス」は中国政府と世界保健機関が問題を過小評価したことなどにより世界中に拡散し経済活動、社会活動に甚大な被害を与えている。五輪史上開催延期という前例のない形態をとらざるを得ない状況であるが、本会の四十周年にとっても忘れ難い記念すべき年になった。と、将来的に記憶されることになると思います。いずれにしても速やかな終息を願い会員皆様の安全な生活を送られますようにお祈り申し上げます。

### 乃木坂歯科クリニック

院長 藤野よし雄 藤野由美子 (S43年卒)  
〒107-0052 港区赤坂 9-5-26 パレ乃木坂 202  
TEL 03-3404-9838

年に1回は、歯のチェックを！

## これからの「ふるさと長井」を考える

村上 義則 (長南 S39年卒)



ふるさと長井を離れ早や50余年、この間、日本は高度経済成長を一途に走り、石油危機など幾多の危機を乗り越え、世界第2の経済大国まで昇りつめました。故郷長井からも沢山の若者が経済成長の担い手となり、高度成長の舞台・大都市に吸い込まれていきました。しかしながら、1990年代以降は異常な経済膨張の反動やバブルの崩壊、低成長、デフレに見舞われ、農村部の過疎化が進み、更には東日本大震災や昨今の世界的な新型コロナウイルス汚染などに直面、現在は過去に類を見ない質的な大変動の時代に突入している、と考えています。

「ニューノーマル（新しい日常）」と表現する人もいますが、作家の五木寛之は「三散（分散・拡散・逃散）の時代」の到来と言っています。

昨今、ウイルス騒動に対応、「テレワーク」「リモートワーク」「オンライン学習」……等日常的になり、内実は勤務形態にも及び、日々の出勤概念も変化、「オフィス革命」が始まりつつあります。この動きは世界的な風潮として、元に戻ることは考えられません。

このような「うねり」をどう理解するか？言うまでもありません。過疎になりかけているふるさとに大きなチャンスが訪れています。これまでの一極集中から、三散（特に、分散・拡散）時代の幕開けです。このチャンスを活かすためには、地元長井の志ある人材に活躍の場を設け、海外も含む有意な外部人材の積極的な受け入れが必須です。長井の未来図の合意形成が前提になりますが、高度なICT活用と同時に、「科学技術・マーケティングに支えられた農業は知的先端産業である」との認識は当然でしょう。加えて、ふるさとの最大の長所は地政学的な強みです。降雪はありますが、台風被害もなく、隣県が見舞われるような大地震も無縁、近未来確実な巨大地震の発生を想定すると、最大のセールスポイントです。置賜盆地の米沢・南陽などと協働、未来に向けた早急な動きが望まれます。

## 身辺雑記

桑島 寛之 (S46年卒)



長井高校卒業以来の生活と、ふるさと長井に対する想いを綴ります。高校卒業後東京の大学を出て就職、JA全農（全国農業協同組合連合会）に職を得て38年、5年前に退職し年金生活者となりました。

転勤の多い職場（14回の引越）で、福岡・大阪・岐阜など中～西日本の各地区との付き合いが長く、昨今の災害の報に接するたびに「あの人は……」「あの田畑や選果場は……」「あそこの産地は……」とお世話になった方々のことが心配でなりません。荒っぽい九州弁や軽い（と感じた）関西弁に最初はとまどったものですが、「どこであってもいい人はいい人」と肌身で知った転勤生活でした。おかげさまで全国全県に足を運ぶことになり、各地の風物・気候・人情に触れたことは大切な財産となっています。

現在は、高校・大学で親しんだ合唱活動を再開しています。大学3年生の夏休みの演奏旅行でできたばかりの長井市民文化会館で公演しました。今年改装と聞き懐かしく思い出しています。

また、退職後「メンタルケア」「グリーンケア」に関する資格（精神対話士・臨床傾聴士）を取得して、現在、下町の「ホスピス」や「子ども食堂」「学習支援」活動にボランティアとして参加しています。この豊かな時代にいかに多くの人たちが路上生活を余儀なくされたり、一人親家庭で学習環境や食環境に悩まされていることか……。

資格取得の授業（上智大学グリーンケア研究所）では、種々の講義とあわせて、くりかえし「自分を知ること」「生育歴の振り返り」のワーク（レポートやグループ討議）がありました。そのたびに思い起こすのは高校生活までを過ごした「ふるさと長井」のことです。これほど四季折々の変化に富んだ自然に恵まれた場所は全国でも珍しいと思います。コロナ禍による“巣ごもり”の中、この豊かな自然の中に生を受け、遊び、学ぶことができた幸せをかみしめる日々を過ごしています。

## 百周年記念の碑文に、父の詩が刻まれる

芳賀 道也 (S51年卒)



僕らが毎日通った昇降口の傍らに「100周年記念碑」は建っていた。そこには「万物我に備わる」おなじみの校訓とともに、亡き父 芳賀秀次郎の『若い友へ』の一説が刻まれていた。

そして、この碑は、特別な物だ。単に寄付を募って贈られた物ではない。

東京同窓会の工藤会長の発案で、同窓会有志の皆さんと同級生のケーナ奏者「やぎりん」の音楽仲間達が東京・山形で何度も『長井高校100周年記念コンサート』を開き、その収益金で母校に贈られたものだ。ふるさとの公演には長井市民の皆さんも協力してくれた。多くの皆さんの思いがこもった特別な記念碑である事がさらにうれしい。ただ、コロナ禍の今、引き渡し式は、東京同窓会の工藤美知尋会長、事務局の八木倫明さん、高橋美恵子さん、学校側からは校長・教頭先生など、合わせて数名で、質素に行われた。もちろん、僕自身も「長井高校から初の国会議員を！」と多くの皆さん応援して頂いて当選した「参議院議員」としてではなく、あくまで碑文に刻まれた父の家族代表としての参列でした。

式が終わって、母校の正門に回ると、そこには僕らの高校時代に建立された佐藤剛先生の碑があった。

僕の父が現役の校長時代、自分自身の恩師であった佐藤剛先生の碑を建てるために奔走していたことを思い出し、感慨深く、その前で立ち止まった。何度か僕たちの恩師 錦啓先生もこの碑の素晴らしさを語ってくれたのを思い出し、読んで、衝撃が走った。

『むづかしい世と思う 朝早く あの山 この山 実に青い』  
還暦を過ぎてようやく、10代の頃には判らなかった、この意味の深さを感じた。

「これは佐藤剛先生が、日本が不幸な戦争に向かう時代の暗さと不安の中で詠まれた物だ」と教えてくれたのは錦先生だったろうか、それとも父だったろうか。もう記憶は遙かになってしまったが、コロナ禍にある今、時代を超えて 普遍の輝きを持つ、この碑も、100周年を迎える母校長井高校の素晴らしい宝物だ。



## 訃報・追悼文

### 水野多門先生を偲んで

～先生と鷹桜会館前庭に佇む石碑～

安部 浩 (S36 年卒)

令和2年2月24日に水野多門先生の訃報に接しました。生徒に慕われ、先生方の信頼も厚かった先生に、おまえ余計なことすんなど言われそうですが、先生を偲んで一筆書することにしました。鷹桜会館前にある小さな庭の中程に、「石樹枝を抽ず」と刻まれた石碑があります。3番教室(3年3組)で学んだ36年卒業生が昭和61年秋に卒業25周年を記念して母校へ贈ったものです。この碑に銘を記してくれたのが当時担任だった水野先生です。石樹とは石でつくった樹、枝を抽(ヌキン)ずとは枝を生ずるの意で、弛みない努力と頑固でしぶとい気力があれば不可能なことはないという意味です。後輩諸君への健闘祈念も込めて

記していただいたものです。3番教室にはいろいろな面で話題が多い生徒が多く、時には意地を張り反逆の心に燃えたり、時にはしぶとく豪傑振りを発揮したりして、先生に散々迷惑をかけたものたちが、25年後には公私共々中堅として立派に大成されている姿をみて、感無量の思いで浮かんだ銘であると、昭和62年長高図書委員会発行のリーディングタイムズに書かれています。水野先生が16代校長として母校に戻ってきているときのことです。

世界に学べ、可能性は無限に広がっている、やることは沢山あるじゃないかといって、髪を振り乱しながら生徒にチャレンジ精神を鼓舞してくれた熱血先生でした。ひっそりと佇む、先生が心を込めて一筆記した石碑の前に立ち、母校100周年記念式を目前にして旅立たれた恩師水野先生を偲びたいと思う。

### 高橋實先生を偲ぶ

丸山 安子 (S41 年卒)



昨年の東京鷹桜同窓会は、實先生が来賓と聞くも先生の上京かなわず、そして暮の12月中旬に先生の訃報を知ることになった。

私たち41卒の会にはいつも参加して下さり、皆との再会を喜び、見守っ

て下さった。

私は二学年の時の担任でお世話になった。その年は新潟地震、東京オリンピック、北海道修学旅行と大きな出来ごとが重なった。

それ故に想いが多く呼び戻される。新潟地震では、翌日が防災訓練という日の昼、階段を転げるように降り、屋根瓦を避けながら校庭に集まり先生と共に皆の安否を確認、安堵。

修学旅行では、私は山形の病院通いで旅行に参加できなかった。でも級友達からの大きな木彫りの熊の置物や沢山の写真と思い出話。寂しさを感じ

じさせないよう実先生のもと、級で温かく接して貰った事も忘れられない。

最後に先生が天国で苦笑いなさる様な話。

真山美保率いる劇団新制作座の舞台が荒砥高校で上演されると聞き、演劇好きだった私は友人と二人早退しての観劇を決意。その旨を正直に話すと「お腹が痛いんだな。帰れ！」

『泥かぶら』という芝居。

いつもにっこり笑うこと

自分のみにくさを恥じぬこと

人の身になって思うこと

こんな出会いを許して下さった先生に感謝しつつご冥福をお祈り致します。



2013年3月 四一会主催・恩師高橋實先生との熱海旅行

# 2019年度 決算報告、役員

[2020年10月20日迄]

一般会計			
2019.6.1-2020.5.31 単位:円			
収入の部	予算	実算	差異
年会費	270,000	249,000	▲21,000
懇親会費	780,000	640,000	▲140,000
寄付金	350,000	423,000	73,000
本部助成金	13,000	12,000	▲1,000
会報広告収入	12,000	2,000	▲10,000
前期繰越金	744,351	744,351	0
小計	2,169,351	2,070,351	▲99,000

一般会計			
2019.6.1-2020.5.31 単位:円			
支出の部	予算	実算	差異
総会費	330,000	307,166	22,834
懇親会費	700,000	560,403	139,597
会議費	70,000	36,170	33,830
名簿管理費	10,000	21,084	▲11,084
通信費	50,000	38,531	11,469
広報費	130,000	127,275	2,725
支払手数料	35,000	35,239	▲239
消耗品費	20,000	0	20,000
本部派遣費	150,000	95,000	55,000
次期繰越金	674,351	849,483	271,426
小計	2,169,351	2,070,351	

特別会計			
2019.6.1-2020.5.31 単位:円			
収入の部	予算	実算	差異
雑収入(利子)	18	21	3
前期繰越金	2,329,297	2,329,297	0
小計	2,329,315	2,329,318	3
支出の部	予算	実算	差異
支出金	50,000	40,000	10,000
次期繰越費	2,279,315	2,289,318	

## 2019年度役員

会長	工藤美知尋 (S41 卒)
事務局 長	安部 省吾 (S38 卒)
副会長	佐藤 元保 (S37 卒) 川崎美和子 (S39 卒)
	小口 英吉 (S41 卒) 藤野由美子 (S43 卒)
学年幹事 長	今 憲行 (S43 卒)
副事務局 長	井澤 小一 (S45 卒) 高橋美恵子 (S51 卒)
	大野 治雄 (S46 卒) 佐藤 俊之 (S60 卒)
監査 役	鈴木 仁 (S38 卒) 木村 清次 (S44 卒)
相談 役	守谷 次郎 (S38 卒) 斎藤 四郎 (S38 卒)

# 2020年度 予算・活動報告、新役員(案)

[2020年10月20日から]

一般会計			
2020.6.1-2021.5.31 単位:円			
収入の部	前年度決算	予算	差異
年会費	249,000	460,000	211,000
懇親会費	640,000	0	▲640,000
寄付金	423,000	180,000	▲243,000
本部助成金	12,000	12,000	0
会報広告収入	2,000	2,000	0
前期繰越金	744,351	849,843	105,492
小計	2,070,351	1,503,843	▲566,508

一般会計			
2020.6.1-2021.5.31 単位:円			
支出の部	前年度決算	予算	差異
総会費	307,166	0	307,166
懇親会費	560,403	0	560,403
会議費	36,170	40,000	▲3,830
名簿管理費	21,084	20,000	1,084
通信費	38,531	40,000	▲1,469
広報費	127,275	450,000	▲322,725
支払手数料	35,239	40,000	▲4,761
消耗品費	0	10,000	▲10,000
本部派遣費	95,000	120,000	▲25,000
次期繰越金	849,483	783,853	207,769
小計	2,070,351	1,503,853	

特別会計			
2020.6.1-2021.5.31 単位:円			
収入の部	前年度決算	予算	差異
雑収入(利子)	21	21	0
前期繰越金	2,289,318	2,289,318	0
小計	2,289,339	2,289,339	0
支出の部	前年度決算	予算	差異
支出金	50,000	30,000	20,000
次期繰越費	2,279,315	2,249,315	

## 2020年度新役員(案)

会長	工藤美知尋 (S41 卒)
事務局 長	八木 倫明 (S39 卒)
副会長	佐藤 元保 (S37 卒) 川崎美和子 (S39 卒)
	小口 英吉 (S41 卒) 藤野由美子 (S43 卒)
学年幹事 長	今 憲行 (S43 卒)
副事務局 長	大野 治雄 (S46 卒) 佐藤 俊之 (S60 卒)
学年副幹事 長	井澤 小一 (S45 卒) 高橋美恵子 (S51 卒)
監査 役	鈴木 仁 (S38 卒) 木村 清次 (S44 卒)
相談 役	守谷 次郎 (S38 卒) 斎藤 四郎 (S38 卒)

## 2020年6月1日~2020年11月迄の活動計画

2020年01月11日(土)	第1回役員会 15時~
2020年02月19日(金)	本部100周年記念事業実行委員会(長井;工藤会長出席)
2020年03月	母校新卒者同窓会入会式(長井)
2020年03月28日(土)	(第2回役員会)→新型コロナウイルス蔓延のため中止
2020年04月08日(水)	(本部100周年記念事業実行委員会臨時会合(長井))→新型コロナウイルス蔓延のため中止
2020年05月09日(土)	(第3回役員会並びに前期学年幹事会)→新型コロナウイルス蔓延のため中止
2020年06月27日(土)	(母校100周年記念式典・講演会・祝賀会(長井))→10月31日(土)に延期
2020年09月05日(土)	(第4回役員会 13時半~並びに後期学年幹事会)→新型コロナウイルス蔓延のため中止
2020年10月03日(土)	(第5回役員会 15時~)→新型コロナウイルス蔓延のため中止
2020年10月24日(土)	(2020年総会・懇親会 11時~『レストランアラスカ』)→新型コロナウイルス蔓延のため中止
2020年11月(未定)	支部連絡協議会(長井) 18時~



## 同好会イーグル会の歩み

学年幹事長 今憲行 (543年卒)

イーグル会はゴルフを通し会員相互の親睦を深めることと健康増進を目的として2012年5月25日参加者6名でスタートしました。

年2回を基本に8年連続開催し昨年11月で16回目を数え、延べ参加者数は180名となりました。現在登録者は26名です。今年5月に17回目を予定しましたが残念ながらコロナ禍で中止となりました。

細々ながらここまで長く続いたのは柱となる大先輩諸氏のご参加やアドバイスのお蔭です。そして年齢・ゴルフ歴を越えて気楽で楽しいからです。加えて自由参加になります「前夜祭」があり、翌日の本番を盛り上げます。当日は和気藹々プレ



イし終了後の表彰式では久しぶりの再会を喜び、近況など交えた健康の話題で盛り上がります。

普段と違った一日を味わえるのも魅力のひとつかも知れません。最近は初参加の方も徐々に増えてはおりますが、さらに新しい仲間が加わり同窓会の交流の場としていつまでも繋がっていくことを願っております。



## 鷹桜俳句会へようこそ！

大場 八朗 (527年卒)

令和二年一月五日新年句会は俳句結社万象の小松川句会との合同吟行句会となりました。

新年の日暮里、谷中、根岸を散策し大場八朗さん宅にて句会を持ちました。桜の頃にもう一度句会を持つ予定でしたが思いも寄らぬコロナ自粛となり通信句会となりました。



2020/01/05 谷中吟行の後

連絡先: 宮崎 正義 Tel & Fax: 03-3439-0897  
携帯電話: 090-1210-2864 メール: omiyasama3830@gmail.com

- クレマチス朝日のつつむ濃紫
- ゆるやかな風に吹かれし柿若葉
- 葉桜や終日人の影見えず
- 五月かななんと寂しき昼来たる
- コロナ禍や神田三社の祭なし
- 樹皮で立つ古木の先の薄紅梅
- 散る桜別れの言葉言いそびれ
- 田水沸き立山連峰輝きぬ
- 見へぬのに怯へし家居花いばら
- やはらかに地球を癒せ春の月
- 秩父嶺の淡き群青春霞
- 日枝の杜膨らむでをり立夏なる
- あの山へ今行かんとす時雨虹
- 少年にコロナ休校啄木忌
- 疫病の広がるこの世初蝶来
- 夏蜜柑真白き花は去年の実と
- 凍て空にせまる黄昏二日月
- 朝の日に白梅散れりちらちらと
- 花御堂長き睫毛に先譲らる
- 頂きしミモザひと枝コロナ家居

武田律子

宮崎正義

大場八朗

福田ふみ子

### 俳句投稿並びに俳句会会員をお待ち致しております！

俳句、排苦?! 否 俳句です。俳句は自分の詠んだ句の説明をしません。読んだ人の解釈に任せます。小説家は一人で創作しますが、俳句は座の文芸です。集まって切磋琢磨して句を推敲するのです。(主観から客観へ) 誠に楽しくて百歳までも出来る俳句作りにご参加をお待ち致しております。

# 東京鷹桜同窓会だより第一号



創立六十周年記念式典  
大盛況

東京鷹桜同窓会  
創立六十周年記念式典  
大盛況

長井中学 東京鷹桜同窓会  
長井高校 鷹桜会

六十年を振り返って  
長沼孝二

東京鷹桜同窓会会報創刊号（昭和56年2月1日発行）  
拡大版は下記のURLよりご覧いただけます  
<http://tokyoyoodsokai.sakura.ne.jp/kaichoaisatu.html>



工藤、鈴木仁、中本（鈴木）、大野

## 編集後記

（編集長 工藤美知尋 記）

今年2月の時点では、新型コロナのために、社会活動がストップする事態になることなどは全く予想しておりませんでした。それが今や、オリンピックをはじめ、本会の総会・懇親会は中止、さらに母校の創立百周年記念式典も危ぶまれる事態となっています。一日も早い終息を、心より願っております。エッセーをお寄せいただいた方々に、お礼申し上げます。来年の10月23日、またお会いしましょう！



学年幹事一同

## 《 学年幹事の皆さん 》

（2020年6月1日現在）

卒年	年	名	前	卒年	年	名	前
昭21	中	大竹修一		昭42	高	平田節雄	
昭28	高	安部策夫		昭42	高	佐藤さち子	
昭28	高	新田正		昭43	高	鈴木勉	
昭29	高	鰐淵康彦		昭44	高	完戸康男	
昭30	高	片倉新治		昭44	高	沼沢幸雄	
昭31	南	小形正明		昭44	高	丸川元一	
昭31	南	青木清子		昭44	高	浅野陽一	
昭33	南	羽田聰子		昭45	高	中田啓子	
昭33	南	齋藤淑子		昭45	高	荘司信明	
昭36	南	飯沢武		昭46	高	樋口利美	
昭36	南	末吉暁子		昭46	高	安部俊彦	
昭36	北	海老名信子		昭46	高	桑島寛之	
昭37	南	荒生保男		昭46	高	竹田英也	
昭37	南	大滝二三夫		昭47	高	竹田茂	
昭37	北	石井宏子		昭47	高	中萩真知	
昭37	北	大島陽子		昭48	高	鈴木俊彦	
昭38	南	影山勝範		昭49	高	遠藤剛	
昭38	南	中本恵美子		昭49	高	那須優則	
昭38	南	小関武		昭51	高	北村成子	
昭39	南	新野昭彦		昭52	高	阿曾亮子	
昭39	南	丸川満		昭53	高	高橋直樹	
昭40	高	黒沢輝夫		昭57	高	高橋好則	
昭40	高	平憲一		昭57	高	佐野勝彦	
昭41	高	前司憲行		昭57	高	沼澤秀雄	
昭41	高	菊地淳二		昭58	高	鈴木祐子	
昭41	高	滝沢久		昭59	高	菅野和彦	
昭41	高	丸山安子		昭63	高	青木昌智	
昭41	高	今井直枝		平04	高	井上博司	
昭41	高	五十嵐正樹		平11	高	手塚多美子	
昭42	高	宮崎正義					

〔転居先〕 武田 律子さん（2020.6.6）  
〒930-0088 富山市諏訪川原2-5-8-201 TEL:090-3237-3068

## 東京鷹桜同窓会事務局

八木 倫明  
〒120-0001 東京都足立区大谷田2-3-35  
ボナハイツ中川 3-1011  
TEL:080-5379-4929 FAX:03-5856-3584  
E-mail:yagirin88@gmail.com

## 暑中お見舞い申し上げます

東京鷹桜同窓会役員会一同  
（2020年度）



左から、今、工藤、川崎、木村、井澤、小口、佐藤、藤野、八木